



# 宮城小通信

郡山市立宮城小学校

学校便り No.59

令和6年2月2日

文責：校長 伊藤 孝行

明日2月3日は節分で4日は立春です。



今年の立春は2月4日(日)のため、その前日が節分です。この節分というものは、下の表に示したように、実は1年に4回ほどあるのです。

	節分の日	翌日
1回目	2月3日(土)	立春2月4日(日)
2回目	5月4日(土)	立夏5月5日(土)
3回目	8月6日(火)	立秋8月7日(水)
4回目	11月6日(水)	立冬11月7日(木)

お気づきのように、暦の上で季節が変わる前日すべてが節分なのです。しかし、節分といえば立春の前日だけがクローズアップされています。

その訳は、冬から春に移る立春は、旧暦では正月節にあたり、一年の始まりとして特に重んじられていたからです。

昼休みを利用して豆まき集会を行いました。



豆まきの歴史は古く、今から約1300年ほど昔の飛鳥時代(聖徳太子が活躍したころ)に中国(唐)から伝わった「追儺(ついな)」と呼ばれる風習がその由来とされています。その後、時代を経て、鎌倉時代の終わりから室町時代の始めには、現在のような「鬼は外、福は内」の形になり、江戸時代には庶民にも広がったと言われています。

豆まきのもう一つの主役は「鬼」です。

子どもたちに人気の「鬼滅の刃」に登場する鬼

はもともと人間でしたが、様々な事情から鬼になったという悲しいストーリーがありました。



豆まきで、豆をぶつけられ退治されるのは鬼ですが、人間がもつ様々な悪い面やみにくい面から生まれた鬼には5色の鬼がいます。それぞれ鬼の色には以下に示したように意味があります。

鬼の色	色が表す人間の悪い面
赤鬼	貪欲や欲望, 人の物を強く欲しがる
青鬼	悪意や憎しみや強い怒りをもつ
黄鬼	後悔や執着, 自己中心的な考え
黒鬼	人を騙したり疑ったりする
緑鬼	怠けや食べ過ぎ, 不健康, 不真面目

節分に合わせ、「自分の中には何色の鬼が住んでいるのか?」と振り返ることもよい機会かもしれません。

郡山に恵方巻の習慣は昔からあった?



毎年、節分が近づくとスーパーやコンビニには数多くの恵方巻が並びますが、郡山では昔はなかった習慣です。

今では、恵方巻を食べる文化は日本全国で知られており、節分の習慣の一つとなりつつあります。今回は、恵方巻の由来や起源について紹介していきます。

恵方巻を食べる起源は、江戸時代から明治時代にかけて大阪を中心に始まったといわれています。商売繁盛や節分をお祝いすることが目的で、商人や芸人たちから始まったようです。

当時は、恵方巻ではなく、「太巻き寿司」や「丸かぶり寿司」と呼ばれることが多く、「七福」にかけて「7つの具材」を入れて食べていました。

1989年、大手コンビニが節分に食べる太巻き寿司の販売を開始しました。広島県で恵方巻と名付けられ、それから、一気に全国に広がり、スーパーやデパートでも販売されるようになりました。